

彙 報

(1)

○1967年度の本会総会は、4月17日午後2～5時、京大人文学研究所分館ホールで開催。同時にパネルディスカッションを開いた。テーマは「西アジアの農業をめぐる」。講師として東中秀雄、末尾至行、応地利明、吉田光邦の4氏がそれぞれの立場から農業問題について発言あり、出席者も多く、討論も活潑であった。司会は織田武雄。○本年度の役員は次のようである。会長、足利惇氏、副会長、織田武雄、また会誌の編集には吉田光邦、伊藤義教を中心として山本茂、森本公誠、末尾至行、小野山節、米田治泰があたることになった。

(2)

○辻直四郎著「インド文明の曙」(岩波新書)は1月刊行。同じく同氏編「ヴェーダ、アヴェスター」(筑摩書房)には岩本裕、伊藤義教、服部正明諸氏の労作がふくまれる。1月刊行。○梅棹忠夫著「文明の生態史観」(中央公論社)は1月刊行。○岩本裕著「仏教説話研究序説」(法蔵館)は1月刊行。○西田竜雄著「西夏文字—その解読のプロセス」(紀伊国屋新書)は3月刊行。○日本オリエント学会の「Orient」vol. 3は3月刊行。○京都大学イラン、アフガニスタン、パキスタン、学術調査報告は水野清一編「ハザールズムとフィルハーナーアフガニスタンにおける石窟遺跡の調査」及び織田武雄、末尾至行、応地利明著「西南アジアの農業と農村」はともに3月京都大学より刊行。○川喜田二郎「ネパール・ヒマラヤ探検記録—ネパールと日本1899—1966」(日高信六郎編)(講談社)は4月刊行。○加賀谷寛訳「H・A・R・ギブ：イスラム文明—その歴史的形成」(紀伊国屋書店)は5月刊行。○三笠宮崇仁訳「ジャック・フィネガン：聖書年代学」(岩波書店)は5月刊行。同じく「ここに歴史はじまる」(文芸春秋)は6月刊行。○護雅夫著「遊牧騎馬民族国家」(講談社現代新書)は6月刊行。

(3)

○No. 18の刊行が半年もおくれ、会員諸氏に多大の御迷惑と御心配をおかけしましたこと、編集部一同ふかくおわび申しあげます。○原因は印刷費の値上りによる財政難。○ようやく今秋に至って東海大学出版会に印刷を移すことによって今後の見通しがたちましたけれども財政の前途は決して樂觀できません。事情御賢察の上、会員諸氏の御協力を心からおねがい申しあげます(編集部より)